



東海村産の新鮮農産物の目印です！

「とうかい育ち」シールを集めて 農産物をもらおう！



村では、村内の農産物を多くの方に知ってもらい、地産地消を推進するため、村内で作られた農産物などに「とうかい育ち」シールを貼付し、販売しています。シールが貼付された農産物を購入し、シール20枚を一口として応募した方の中から抽選で、「とうかい育ち」農産物をプレゼントします。

「とうかい育ち」シール貼付の農産物は、東海ファーマーズマーケット「にじのなか」、イオン東海店(1階・東海村産農産物販売コーナー)等で購入できます。皆さんぜひご応募ください。

期間▼令和3年2月21日(日)まで ※▽第1回抽選締め切り…12月20日(日)▽第2回抽選締め切り…令和3年2月21日(日)

その他▼一人につき何口でも応募できます。

申し込み・問い合わせ▼「とうかい育ち」農産物取扱店備え付けの応募用紙に必要事項を記入し、店舗に設置されている応募箱へ投函または、農業支援センター(東海ファーマーズマーケット「にじのなか」内 ☎287-7867(土・日曜日、祝日を除く))へ申し込みください。※応募用紙は村公式ホームページからもダウンロードできます。

ふるさと歴訪
〜自然を探して〜



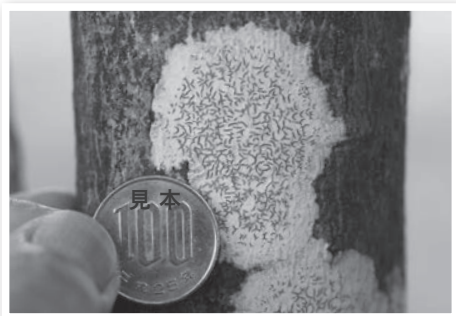
「地衣類」の形いろいろ

昨年度、地衣類の話を紹介したところ、令和元年11月25日号で紹介したところ、熱心な読者から「ウメノキゴケが樹木などに付着すると枯れてしまうのですか」という質問がありました。そこで「いいえ、何らかの理由で樹勢が衰えた場合に付着すると考えた方がいいと思います」とお答えしました。

むしろ、地衣類は環境の変化に弱い生物です。特に大気汚染には敏感で、車の排気ガスなどに含まれる二酸化硫黄の濃度が0.02ppm以上になると生育できなくなるというわれています。このような性質を持つ生物を「環境指標生物」といい、自然環境の変化を調べるために活用されることがあります。

しかしながら、植物などに悪影響を与えるような姿形をした生物です。まさに、その印象を持たせる典型的なものがあります。それは「モジゴケ」の仲間です。

写真は、舟石川小学校の校庭にあるキンモクセイの樹皮に、モジゴケの一種がかさぶた状に付着している様子で



【キンモクセイの樹皮に付着したモジゴケの一種(舟石川小学校敷地内)】

この木の表面は堅い皮状になっていて、生命活動に特に関わっていないといっている部分です。ですから地衣類が木の成長を妨げているわけではなく、たまたま、ここを生活の場にしていただけなのです。ところで写真のモジゴケの一種には、表面に文字に似た模様のようなものがあります。これが、モジゴケという名前の由来です。この模様は「子器」と呼ばれ、この地衣類の本体である子嚢菌が胞子を出す部分です。ここまで読んだ方から、「えっ！地衣類っていろいろな形のものがあるのですね！」という声が聞こえてくるようです。地衣類の形には主に3つの生育形があります。昨年紹介したウメノキゴケは「葉状」、今回のものは「葉状」、今回のものは「葉状」です。残りの一つは「樹枝状」で、代表的なものに「ハナゴケ」があります。これが実に魅力的な形をしています。かつては東海村の海岸線の松林の中にあつたといわれていますが、今はどうなっているのでしょうか。

東海村教科特別指導員

安 敦之